

序

いまからちょうど20年前に撮影した平城京の航空写真を見て、京内の都市開発状況の今昔を比べてみると、その激しさに驚かされる。奈良市の人口は、撮影時の14万人をすでに倍化したのである。なかでも現西大寺駅近傍の変わりようは、奈良市内でも特に激しく、ほとんどが水田であった駅南側はビル化し、地面を残す所がわずかとなってきている。

このたび明光開発株式会社が、駅南側においてスイミング・スクールとして利用しようとする土地を、関係諸方面の御協力により発掘調査することが出来たのは幸いであった。調査の結果、この地は奈良時代を通して利用されていることが判明し、それにとמוなう幾多の遺物を採集している。

1981年度も、当研究所平城宮跡発掘調査部が実施した市街化にとמוなうこのような発掘調査は、40件という多きにのぼっている。

これまでにおこなってきたこの京内遺跡の調査によって得られた成果は膨大なものとなってきているが、それでも広大な平城京の中では1%にも充たないものである。しかし、これらの調査成果をどのように活用していくかも今後の大きな課題となろう。

1982年5月

奈良国立文化財研究所長

坪 井 清 足